

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300202		
法人名	社会福祉法人 相清福祉会		
事業所名	グループホーム陶ヶ岳		
所在地	山口県山口市鑄銭司2361-38		
自己評価作成日	平成24年3月28日	評価結果市町受理日	平成24年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした時間の流れの中で、温かい家庭的な雰囲気を大切にし、ひとりひとりが居心地がよいと感じられる空間になるように努めている。
 家族・地域とのつながりを大切にし、笑顔のあるいきいきとした生活が送れるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた豊かな環境の中で、明るくゆったりとした居住空間を設けておられ、利用者は温かい家庭的な雰囲気の中で、居心地良く生活しておられます。利用者のその日の希望にそって、一人ひとりのペースを大切にし、近くのセミナパークの公園を散歩したり、畑仕事を楽しんだり、見守りながら柔軟に支援されています。設立と同時に家族会を立ち上げられ、家族との絆を大切にして、家族会開催時や面会時、電話等で家族から意見や要望を聞いて運営に反映させるなど、サービスの向上に努めておられます。利用者は並列のユニット間を行き来して、会話をされたり、テレビを見たり、ウッドデッキで外気浴を楽しまれたり、思い思いに居心地良く過ごしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム陶ヶ岳独自の指針を掲げており、事務所内に掲示することで、職員全体で共有し、常に実践していけるようにしている。	「ゆったりとした時間の流れの中で、温かい家庭的な雰囲気を大切にし、一人ひとりが居心地良いと感じられる空間とする。家族地域とのつながりを大切にし、笑顔のある生き生きとした生活が送れるように支援する」と事業所独自の理念(指針)をつくり、事務所に掲示し、職員間で話し合い共有して実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流は出来ていないが、地域の年行事(祭り等)がある時には参加している。法人内での地域との交流の場に参加している。	地域の秋祭り、法人内の敬老会の式典や県警音楽隊演奏会に参加している。地域ボランティアの来訪や週1回の移動パン屋の利用、短大生の実習の受け入れなどで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自体としては行っていないが、法人としてはセミナーなどで寸劇を行いながら伝えて取り組みを行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回が初めての評価であるが、改めて現在の施設の実践内容を確認することにより、今後の施設の在り方について、職員同士話し合い改善に努めている。	管理者とユニットリーダー(2ユニット)で話し合い、自己評価としている。全職員で自己評価に取り組んでいない。	・職員全員での自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、包括職員・民生委員・家族・利用者の方たちに参加してもらい、現状報告や季節の行事等実践した内容を報告し、会議の中で助言や意見を出してもらいながら、サービス向上につなげるようにしている。	市地域包括支援センター職員(2名)、民生委員(2名)、家族(ユニット毎に隔回2名)、利用者等のメンバーで2ヶ月に1回開催している。活動状況や業務等の報告をし、夏場の筋力低下防止について話し合い、筋力アップ体操に取り組むなど、サービスの向上に活かしている。	・メンバーの検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密に連絡を取ることは難しいが、ケアサービスの問題点などがあるときは協力を求めている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加する他、市担当課に問題点を報告し、情報交換をして、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関・門の施錠は行っておらず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。開放的な環境づくりを行っている。	法人内研修や新任職員研修で全職員は理解している。玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は勉強会でも取り入れ周知徹底している。身体を観察も行い、見過ごすことが無いように注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用されている利用者はいないが、成年後見制度について、勉強会でも取り入れ、知識を習得していき、個々の必要性についても話し合い対応していけるように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に十分に説明を行い、理解・納得の上、契約開始を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	電話や面会時、家族会等で意見や要望を聞いている。「レクリエーションを取り入れてほしい」「外出の機会を増やしてほしい」等の家族からの要望があり、運営に反映させている。苦情の受付体制や処理手続きを周知し、第三者委員を明示している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し合いの場を持ち、本人の意見や提案など聞き、運営に反映させている。職員が意見を言いやすい環境を作るようにも心がけている。	月1回の法人研修会後に、職員の話し合いの時間を持つ他、日常の業務の中でも意見や提案を聞いている。休憩時間の取り方、勤務区分の中の業務配分の変更等、職員からの意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた職場環境を作り、やりがいもてるように整備している。給与水準は、人事考課を活用して昇給に反映している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修には出来る限り参加するように機会を持たせ、職員一人ひとりのスキルアップを図っている。法人内の研修は、参加するようにしている。	法人内研修は年間計画に沿って月1回実施し、職員は参加している。外部研修の情報を職員に伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。新任職員研修を全職員が受講している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、同業者とのネットワーク作りや相互訪問等の活動を行い、良い面を見習い、サービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不満などの訴えがあった場合は、安心できるように話を傾聴している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に要望や不安点の聞きだし、要望に関しても出来る限り応えるようにしている。また、家族からの話も、家族会等を通して聴くことが出来るように、場を設けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接を行い、どのような支援が必要か、情報収集をして支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は一緒に生活する一人として、利用者には出来ることは行ってもらい、役割を持ってもらっている。人生の先輩として、多くのことを学び、感情を共有しながら支え合って暮らしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りによる近況報告、面会時の報告などで、出来る限り家族と職員とが情報の共有化が出来るようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際に自宅周辺に出かけたり、馴染みの場所への外出等も行っている。	馴染みのスーパーやケーキ屋で買い物をしたり、年賀状を出したり、自宅周辺のドライブ、88ヶ所めぐり、家族の協力を得て外泊の支援をするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の意思を尊重し、自由に過ごして頂けるようにしている。利用者同士が関わり合える環境を整備している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、相談や支援に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	援助を行っていく過程で、本人の今までの生活の仕方等を、一人一人に聴く、また職員と話し合う場を設け、なるべく意志に近づけるよう努めている。	日々の関わりの中で、利用者から聞きとった希望や思いを連絡ノートや介護記録に記載し、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握を行い、生活リズムを壊さないようにして、生活環境を整えている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来ること出来ないことを見極め、残存機能を生かしながら、生活リハビリとして家事仕事等してもらっている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握すると共に、カンファレンスを通して問題点や改善点を話し合い、介護計画を作成している。	本人や家族、主治医、訪問看護師等から聞いた意見を参考にして、カンファレンスで問題点や改善点を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録を個別に記録し、情報を共有化している。気づき等がある時は、連絡帳に記入している。それらを踏まえてケアプランの見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りニーズに対応するようにして柔軟な支援や他サービスとの併用をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内での行事に参加したり、ボランティア受け入れなどを通じた交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院にて定期的な受診を行っている。	協力医療機関の定期的な受診を行う他、本人や家族の希望するかかりつけ医や専門医科は家族の協力を得て受診の支援をしている。訪問看護を週1回利用し、24時間体制で相談でき、適切な医療が受けられるに支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回利用している。訪問看護との連携を図りながら、適切な看護や受診のアドバイスを受けることが出来る体制となっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療体制との連携を図っており、病院関係者との情報交換や相談に努め、利用者や家族が不安にならないように、努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しているが、法人内の特養等、他の施設も含め、多様なサービスの中から選べることも説明している。	入居時に重度化や終末期について、事業所に対応できることを説明している。実際に重度化した場合は法人内施設や医療機関の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルや事故報告書を作成し、未然に防ぐようにしており、事故後の対応策も話し合い事故防止に取り組んでいる。	マニュアルがあり、事故報告書を作成し、対応策を検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。訪問看護師による急変や事故発生時についての話し合いは行っているが、職員全員による応急手当や初期対応の訓練は十分とはいえない。	・職員全員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定しながら避難経路の確認及び訓練を実施している。地域との協力体制は不十分である。	職員は法人の火災訓練や避難訓練に参加している。災害を想定した避難経路の確認や訓練を実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた敬意を持った声かけを行うようにしている。	法人の新任職員研修で職員は人格の尊重やプライバシーの確保について理解しており、さりげない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定が出来るように配慮し、思いや希望が出来る限り応えるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを大切にしたり関わりを行っている。本人の思いをその都度確認し、希望に添った援助をするように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えについては職員と一緒に選んだりしている。起床時の身だしなみは、声かけをし、鏡の前などで一緒に整えるようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳・後片付け(食器洗い・食器拭き)は等、残存能力の維持のため利用者それぞれに出来ることを職員と一緒にやっている。	昼食と夕食は法人の配食を利用し、朝食と週1回の昼食は利用者の希望を聞いて、事業所で作っている。食材の買い物、盛り付け、後片づけ等、利用者のできることを職員と一緒にしている。畑で収穫したサツマイモを使ったり、お好み焼きや誕生日のケーキと一緒に作り、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや栄養バランスの取れた食事を提供している。水分に関しては、午前と午後、入浴後に十分とってもらっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い、利用者一人一人に合わせた口腔ケアを実施している。義歯のある方は、夜間は義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の生活リズム、排泄リズムの確認をし、把握した排泄状況に基づき、排泄の適宜適切な声かけ誘導を行っている。	排泄チェック表により、一人ひとりのパターンを把握し、さりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで排便の確認をしている。飲み物に関しては、毎日牛乳を飲んでもらっている。毎日午前中に、運動(ラジオ体操等)を行い、体を動かすようにしている。家族とも相談し、自然排便が促せる様努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ほぼ毎日入浴を行っている。その都度利用者に入浴の声をかけ、利用者より入浴の時間、お湯加減などを聞き取りながらしている。	一人ひとりのタイミングに合わせて、毎日13時30分から17時30分の間に入浴を楽しめるように支援している。柚子湯や菖蒲湯で、季節を感じるができるよう工夫して入浴の支援をしている。入浴したくない場合は、声かけなどの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息や睡眠が出来るようにしている。日中の活動等も提供し、夜間安眠できるように努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作成しており、薬の目的や用法・容量など職員全員が把握できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族にも、昔どのようなことをされていたのか情報収集し、本人の得意なことを提供している。	脳トレや書道、貼り絵、編み物、畑づくり、食事の下ごしらえ、食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみ、ぬり絵、歌、風船バレーなど、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中で利用者の希望を聞き、希望の外出援助が出来るよう支援している。	利用者のその日の希望にそって、近隣の公園に出かけたり、買い物、花見、セミナパークへの紅葉巡り、道の駅、外食など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は預かっているが、利用者の必要な物は、職員と一緒に買い物に出かけたり、移動パン屋さんでの買い物ができるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることは少ないが、本人の希望や不穏なときは家族に連絡し、会話ができるように支援している。年末に家族宛に年賀状の作成をしたりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて利用者が作成した作品を飾ったり、思い出の写真を廊下に貼ったりしている。	共用空間は広く、明るく、壁には季節に合わせた貼り絵や利用者の作品を掲示している。厨房からは調理の匂いがし、ウッドデッキで外気浴を楽しんだり、並列のユニットを行き来して気分転換を図るなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなどを配置し、落ち着ける場所作りを行っている。それぞれの思い思いに過ごせる様、場所やサービスの提供を行うよう努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具(タンス等)を持ち込まれ好みの居室作りになっている。	居室には、使い慣れたタンス、サイドテーブル、椅子、ホットカーペット、テレビ等を持ち込み、本人が安心して過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所については、わかりやすいように表示の工夫をしている。居室についても、本人がわかりやすいように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム陶ヶ岳

作成日：平成 24年 10月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全職員での自己評価への取り組みが出来ていない。	全職員で自己評価に取り組み、評価内容を理解する。	①各項目について、全職員で話し合いをする。 ②評価内容を理解し、今後の取り組みに対して話し合い、実践する。	1年間
2	35	職員全員による応急手当や初期対応の訓練が不十分である。	職員全員が応急手当や初期対応が出来るようになる。	①全職員が応急手当や初期対応が出来るよう勉強会・定期的な確認を行う。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。